

長野県内のヒメウラジロの分布

池田 登志男

On the distribution of *Cheilanthes argentea* in Nagano Prefecture.

1. はじめに

佐久東部山地の主なシダ植物については、本誌20号で花里弘が報告しているが、この地域に分布するシダ類の中で比較的珍しい種としては、

キンモウワラビ (小諸)、ヤマクラマゴケ (荒船山)、シモツケヌリトラノオ (佐久町)、キレハエビラシダ (臼田町)、イワカゲワラビ (小海町)、ヤシャゼンマイ (佐久町)、ヒメサジラン (小海町)、ヒメノキシノブ (軽井沢町、臼田町、佐久町)、ミヤマウラジロ (各地)、イノモトソウ (佐久市)、オオバノイノモトソウ (臼田町)、コバノヒノキシダ (臼田町、佐久市)、ヒメイワトラノオ (川上村)、アオチャセンシダ (川上村)、ヤマヒメワラビ (川上村、南相木村)、オオアカウキクサ (軽井沢町、佐久)、ヒメウラジロ (小諸市) などが挙げられる。

2. ヒメウラジロ *Cheilanthes argentea* の新産地

県下でのヒメウラジロの分布は、小県郡東部町と小諸市で知られている。

1989年9月、南佐久郡臼田町新海神社付近での分



写真1. ヒメウラジロ

布が明かになった。

現場は、山麓の南にやや傾斜した石垣で、20株ほどあることが確認できた。

'89年9月と10月の2度の調査で見た範囲では、筆者が見ている東部町と小諸市のものに比べれば生育状態はあまり良いとは言えないようである。

3. 県下における分布

前述のように、東部町と小諸市と臼田町に分布するが、いずれも、群馬県と境を接する長野県東部山地の山麓地帯である。

それぞれの地区の自然環境をみると次のようである。

東部町

和地区 標高 650 m

南に傾斜した地形の水田の石垣
筆者の採集 (1956 Hb Ikeda)

滋野地区 標高 550 m

わずかに南に傾斜した地形の水田の石垣
筆者の採集 (1985.8.11 Hb Ikeda)

小諸市

懐古園付近 標高 630 m

南に傾斜した地形の畑の石垣
筆者の採集 (1986.10.5 Hb Ikeda)
近くにキンモウワラビもある。

臼田町

新海神社付近 標高 760 m

南にやや傾斜した地形の畑の石垣
筆者の採集 (1989.9.23 SHIN)

以上のように、いずれも南に面した石垣に生育している。

臼田と小諸での分布は、限られた“地点”である。東部町については調査不足で詳しいことは不明であるが、比較的広い地域に分布するものと予想される。

文 献

大塚孝一：長野県のシダ植物 (1987)

倉田悟・中池敏之：日本のシダ植物図鑑(1)(1979)

花里 弘：佐久東部山地の主なシダ植物. 長野県植物研究会誌 20: 124.

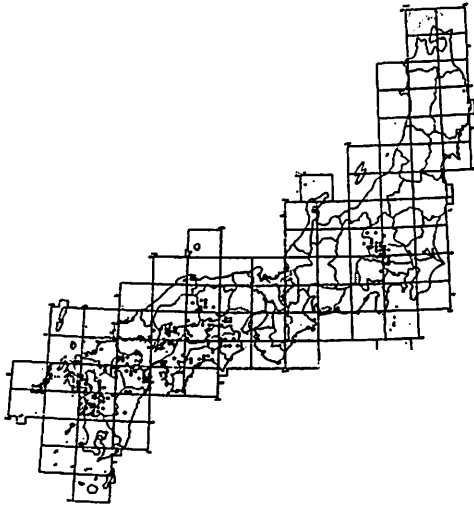


図-1. ヒメウラジロの分布
(日本のシダ植物図鑑より)

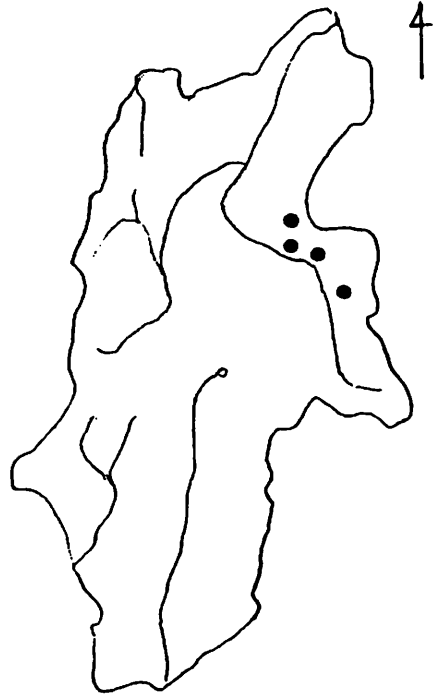


図-2. 長野県下のヒメウラジロの分布

日本高山植物保護協会の設立

他の都道府県に先駆けて、県の高山植物保護条例を制定した山梨県では、保護運動を全国に展開すべく、昨年の6月4日に、高根町清里において「日本高山植物保護協会 (Japan Alpine-Flora Preservation Association 略称JAFPA)」という正式な保護団体を発足させ参加者一同により次の決議をしました。

高山植物保護に関する決議

日本の山々には春の訪れとともに、気高く、可憐な、美しい花々が咲きはじめます。

それは氷河時代からの遺存植物であり、高所において繚乱と美を競うありさまは、まさに天上の聖域をおもわせるものがあります。

その聖域はいま、心ない人々によって荒され、高山の花を絶滅の危機に追い込んでいます。

私達は、日本高山植物保護協会の設立にあたり、つぎのことを確認しました。

- 一、貴重な高山植物を絶滅の危機から守ろう
- 一、高山植物の盗掘の防止につとめよう
- 一、その生育環境の保全に務めよう
- 一、登山者のモラルの向上、自然保護の精神の啓蒙につとめよう

この世の美しいもの、かけがえのない貴重なもの、それらを守り、後世につたえることは、まさに国民的な文化事業であります。

本日、この大会に参加した全員の総意をもって、高山植物保護運動を積極的に行なうことを決議するものであります。

申込先：〒406 東八郡御坂町成田 920-3

日本高山植物保護協会 (H. T.)